

# 令和5年度 第9回 旭川市行財政改革推進委員会 会議録(要旨)

1 日時 令和5年11月7日(月) 15:00~16:00

2 場所 旭川市新総合庁舎会議室7A 及び総合庁舎2階第2応接室

3 出席者 長谷川(芳)会長, 佐々木委員, 杉山委員, 曾根委員, 長谷川(愛)委員  
(事務局)市長, 浅利行財政改革推進部長  
行財政改革推進部 行政改革課 梶山課長, 及川課長補佐, 水沢  
公共施設マネジメント課 門脇課長  
総合政策部 財政課 小澤課長, 万年課長補佐  
総務部 人事課 八木次長, 中山課長補佐

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料

次第

資料1 答申書(旭川市行財政改革推進プログラム2020の改訂について)

6 議事要旨

(1) 開会

(2) 旭川市行財政改革推進プログラム2020の改訂について

(3) 答申

委員会において資料のとおり決定し, 長谷川会長から市長に答申書(旭川市行財政改革推進プログラム2020の改訂について)を交付した。

各委員から口頭で述べられた意見等は次のとおり。

【会長】

市の新庁舎が完成するタイミングで市の行財政改革という大変重要なことを審議させていただき, 一般市民としては分かり得ないところも知ることができた。直接的に業務に携わったことのないメンバーで審議したため, 実現可能性が足りないと思われる部分もあるだろうが, 市民目線での改革が一つの考え方だったということで, 今後担当課の方々と議論いただければありがたい。人口減少を抑制するために取り組めば良い, など難しい問題と知りながら簡単に話させていただいた。委員は全員市民目線で議論しており, 市が衰退していくということは誰も望んでいない。答申を活かしていただければと思う。

【委員】

各論の中で, 歳入確保や歳出抑制も重要だが, 人口減の中にあっては組織改革, 人材育成が重要だと考えた。これは特に旭川市だけという訳ではないが, やはり市民が減ってる中, 市役所の職員の方は本当に頑張っているが, 残業が多いという状況をより効率的な形としていくのが必要ではないかということを検証させていただいた。また, 企業誘致の件では札幌圏でのケースが報道されているが, 北海道の企業誘致と言いながら札幌圏のことなので, 旭川空港やその周りの旭川圏内という意味で上川地域の中での有効な位置づけを考えていくべきだと考えた。苫小牧港のような場所はないが, 留萌港も含めた大きなものを旭川としてできないかと考えた。

先ほど申し上げた、組織改革・人材育成といった近くからできることと、より広い意味でのできることをうまくできればというのが、この行政改革の審議の中で感じたところ。

【委員】

この度は勉強させていただいた。私は半径 3m の視点で意見したところがある。経験を活かしてペーパーレスやオンラインについて主張させていただいたり、子どもたちが地元から巣立っても、ふるさと納税や次世代の若者たちが旭川の魅力を発信するための取組が必要であるといったところを意見した。答申内容を、ぜひ活かしていただきたい。

【委員】

この度は貴重な機会をいただいた。未来に向けて子どもたちが魅力的に感じられる市を作り上げていくことがとても大切だと思った。現実的に課題も多くあり、今回議論した内容が全て思う通りにいくと思っていないが、それでも未来の旭川の姿を思い描くのはとても楽しかった。

東京でのイベントなど旭川の魅力を発信する様々な取組をされていて素晴らしいと思うので、今後もぜひ、皆が大好きになれる旭川を目指して、答申の意見を活用していただけたらと思っている。

今後もあと 1 年任期があるので、自分自身の知識や見地を広げていきながら頑張っていきたいと思うので、引き続きよろしく願いしたい。

【委員】

他の委員の意見を聞いて、大変勉強になった。大学生や高校生世代について知る機会があればいいということを意見してもらったが、それ以上に今回は、自分自身が旭川で何かできないかと考えるきっかけとなった。会議に参加して良かった。

【会長】

今年度のテーマは非常に重たいテーマでボリュームのあるものだった。来年もほぼ同じメンバーで、またできる限りの意見を言わせていただこうと思うので、引き続きよろしく願いしたい。

以上